

規範的影響による同調行動を考慮した違法コンテンツの不正利用の抑制法

Suppression of Inappropriate Use of Illegal Contents Based on Conformity Caused by Normative Influence

安全 15-267 山口 央貴

Hiroki YAMAGUCHI

指導教員：河野 和宏

SUMMARY

Copyright infringement by illegal contents uploaded on the Internet has become a social issue. However, it is difficult to supervise and punish the manager of an illegal site at present. In this paper, we discuss strategies for preventing young users from watching illegal contents. We focus on a normative influence that drives conformity behaviors. As a result, it is shown that we suppress the inappropriate use of illegal contents by telling normative information if young people have high conformity.

KEYWORDS

Illegal sites , synchronism , norm , descriptive , penal regulations

1. はじめに

近年のスマートフォンの普及に伴い、インターネット利用者の数が急増している一方で、ネット上にあるコンテンツに対する著作権侵害が、より一層問題となってきた。例えば、音楽ファイルの違法ダウンロード、無料で漫画が読める「漫画村」などのいわゆる海賊版サイトの利用、これらすべてが著作権侵害であり違法とされている。ただし、海賊版サイトなどの違法サイト及びリーチサイトの取り締まりは困難を極めており、軽い気持ちで不正利用をする者が増え続けているのが現状である。

違法サイトの視聴を抑制するためには、ブロッキング対策だけでなく、違法サイトの利用を助長する「リーチサイト」の利用を阻止する必要がある。リーチサイトとは、著作権者の許可なく違法にアップロードされたマンガや映画などのコンテンツにユーザを誘導するサイトのことである。違法サイトと比較して、リーチサイトの違法性についての確証を見つけることは困難であり、サーバ側を取り締まる手段としての法律的立場からでは議論が難しい。2019 年に入り、リーチサイトへも罰則規定を設けるよう著作権法を改正する方針が示されたが、回避する手段はいくつか考えられることと、海外サーバであれば対応できないため、対策としては不十分である。

一方で、ユーザ視点での抑制手段については、僅かながら研究がされているが、ユーザ視点に立ったリーチサイト

及び違法サイトの利用状況や、不正行動に対する要因についての論述で止まっており、実際の抑制手段について具体的な手法というのは試されていない。そこで、本研究ではユーザ視点に立った違法サイト等の不正利用を抑制するための具体的な手段を検討していく。

2. 同調志向と規範的情報に着目した仮説

違法サイト及びリーチサイトに対する利用抑制手段として、規範的情報を与えることで抑制することを検討する。具体的には、「同調志向が高い人物であれば、規範的情報を与えることで不正利用を抑制することができる。」という仮説に基づき、アンケート調査を行う。

“規範”とは、一定の社会集団内で、その成員が抱いている価値判断の共通の評価基準ないし理想型である。規範によって価値の普遍妥当性が保証される。“同調”とは、ある個人が集団や他者の設定する標準ないし期待に沿って行動することと定義され、特に集団状況で、他の仲間が一致して自分とは異なる意見を主張する場合に同調は生じやすいとされている。つまり、この仮説を検証することにより言えることの一つとして、「同調志向の高い人物ほど、規範的情報を与えた際による変化が大きい。」ということが期待され、違法コンテンツにかかわる適切な規範的情報を与えることで、ユーザ自ら、違法コンテンツの利用を抑制するよう、働きかけすることができる。

3. 調査方法

本調査は、平成30年12月22日から平成30年12月30日までの期間で行われた。総回答者数は86名のうち回答に不備があった1名を除き、有効回答者数は85名（男性38名、女性47名）であった。アンケート設問の作成においては、文献[1]にある同調志向尺度に基づき作成した。

また、質問内容は5つのセクション（ページ）に分け、それぞれ、回答者の基本情報、違法サイトに対する考え方、シナリオA（記述的な規範情報を含む会話文によるシナリオ）を与えた場合の考え方の変化、シナリオB（罰則的な規範情報を含む会話文によるシナリオ）を与えた場合の考え方の変化、同調志向の高さをみる性格質問による5つのセクションで行われた。なお、本稿では紙面の都合上、シナリオAの場合のみで検討する。

具体的に説明すると、違法サイトに対する考え方のセクションでは、「今後も違法サイトを利用するか」を問う設問（Q6）に対し、「バレなければ問題ない」（Q1）と、「周囲がやっているので大丈夫である」（Q3）といった規範意識を問う設問から、「リスクはあるが便利なので利用する」（Q2）というベネフィットや、「危険そうなので利用しない」（Q5）といったリスク認知に関する設問、「詳しくないので利用していない」（Q4）という知識量を問う設問など、様々な要因から分析した。シナリオAのセクションでも、シナリオAを提示したうえで、同様の項目を用意した。

4. 分析結果と考察

同調志向の高いグループと低いグループを分類するために、横田・中西らの同調志向尺度[1]に基づいた分類分けを行う。横田・中西らが「規範的同調」と扱った設問を本研究でも「規範的同調」の設問とみなし、それらの設問から回答者85名のそれぞれの規範的同調の数値を平均化して求めた。本アンケートでは、各問に対し、「1. よくあてはまる」から「5. 全く当てはまらない」の5件法で回答してもらった。ここから、平均化された数値は、大きければ大きいほど規範的同調がみられない、同調志向が低いとみなされ、小さければ小さいほど規範的同調がよくみられる、同調志向が高いとみなすことができる。本研究では規範的同調の平均化した数値が3.1以上のグループを「同調志向の低いグループ（37名）」、2.9以下のグループを「同調志向の高いグループ（33名）」と仮定したうえで

分析を行った。85名のうち15名は3.0の近似値をとっており、今回は除外して分析した。分析方法は、先の手順で得られた同調志向の高さ別のグループに、それぞれシナリオAとシナリオBに対する利用抑制効果を重回帰分析にかけることで、同調志向の高いグループと低いグループを比較できるようにした。

分析結果の一部を以下に示す。同調志向の高いグループと、低いグループでの分析結果のみとなっている。表1の分析結果から特徴的な点は、Q1の有意確率が0.01と、有意水準を満たしており、かつ係数0.708から、正の関係を持っていることがわかる。Q1は規範的な考え方を問う質問であるため、シナリオAを与えた場合、同調志向の高いグループでは、規範意識に強い反応をみせている。つまり、規範情報を提示することで、バレる・バレないという問題ではなく、利用をやめるという抑制の方向に考えをもっていることを示している。

表2の特徴的な点は、Q2の有意確率が0.005と有意水準を満たしており、係数0.443から、正の関係を持っている点である。Q2はベネフィットを問う質問であり、同調志向の低いグループでは、記述的規範を与えても規範意識に影響を与えず、自らの利益を求める傾向があるといえる。

表1) 同調志向の高いグループ（シナリオA）

回帰統計		係数	標準誤差	t	P-値	
重相関 R	0.801	切片	0.478	0.820	0.583	0.565
重決定 R ²	0.642	Q1	0.796	0.205	3.880	0.001
補正 R ²	0.575	Q2	0.198	0.160	1.239	0.226
標準誤差	0.753	Q3	-0.184	0.215	-0.856	0.399
観測数	33	Q4	0.128	0.119	1.071	0.294
		Q5	0.022	0.155	0.139	0.891

表2) 同調志向の低いグループ（シナリオA）

回帰統計		係数	標準誤差	t	P-値	
重相関 R	0.707	切片	1.614	0.920	1.755	0.089
重決定 R ²	0.500	Q1	0.008	0.171	0.045	0.964
補正 R ²	0.419	Q2	0.443	0.147	3.025	0.005
標準誤差	1.015	Q3	0.262	0.161	1.624	0.114
観測数	37	Q4	-0.222	0.179	-1.245	0.223
		Q5	0.158	0.173	0.914	0.368

5. 結論

結論として、同調志向の高いグループと低いグループとで回答内容に差が大きくみられること、規範的情報を与えることによる利用抑制の効果は、同調志向の高い人物の規範意識に影響し、利用抑制を促すことができること、同調志向の低い人物では、規範意識に影響することなく、自らの利益を求めて行動する傾向があることが分かった。

参考文献

[1]横田晋大, 中西大輔, “同調志向尺度の作成—規範的影響と情報的影響—,” 広島修大論集, 51(2), pp. 23-36, 2011.